



2023年度、教職員による自己点検・自己評価の総合平均点は、3.9で昨年より0.1上昇し、過去最高となった。大項目【I.教育理念・教育目的・目標】は4.2と昨年同様であった。＜I-1 教育理念・教育目的の意義と周知＞については、4.0と0.2低下した。新カリキュラムに伴い、教員は、教育活動を行う上で教育理念・目標を踏まえ、学生に伝え、意識して教育活動を実施していることもあり、教員の平均点は、昨年より4.3と0.1上昇している。しかし、事務の平均点が大きく低下（0.6）したことで全体に影響している。教職員全体で、教育理念・教育目的・目標を意識して日々の教育活動に取り組むことが必要である。

【II.教育課程・教育活動】は3.8と0.2上昇した。この大項目の内容については、1項目を除くすべての項目で上昇している。＜II-1. 教育課程・シラバスの妥当性＞＜II-2. 授業運営・授業方法の妥当性＞が4.1と0.4上昇した。毎年、各領域で教育課程・シラバスは時代の変化に対応した内容になるよう見直しを行い、質の向上に努めている。新カリキュラムからは、iPadを導入し、Wi-Fi環境も整備し、学生の学ぶ意欲の向上に向け力を注いだ。特にアクティブラーニング、シミュレーション教育なども積極的に取り入れ、「主体的に学ぶ」ことができるよう教員一人ひとりが授業の質の向上に努力している。時間割も学習内容の順序性を考え、できるだけ調整しながら配置し、早期に提示できるよう意識していることも上昇の要因である。＜II-4. 実習環境・指導体制の妥当性＞が3.5と0.2上昇した。本年度は、感染対策による実習への影響はほとんどなく参加できた。学生は机上での学習と臨地での体験を結びつけ、最終的にリフレクションを行い、文献を活用しながら深めることで充実した学びとなっていた。

【III. 学生生活支援】は4.0と昨年同様高得点であった。＜III-2. 学生の相談の公平性と人権への配慮＞が4.1と昨年より、0.2上昇した。カウンセリング・定期面接や個別面談の機会を有効に活用し、丁寧に学生の相談に対応していたことが上昇した要因として大きい。＜III-3. 国家試験対策の妥当性＞が4.1と0.2上昇した。国家試験の結果は94.6%（74名中）、（全国平均新卒者93.2%）。国家試験対策を中心に年間計画を作成し、ガイダンスや模擬試験・補習講義を中心に行ってきた。また、学生一人ひとりの状況を把握し、成績分析行ないながら、個別に学習支援ができていた。今回の傾向を踏まえ、新カリキュラム完全移行に伴い、難易度も高くなることが予測されることから、新たな対策を考えていくことが課題である。

【IV. 学校経営・管理】は3.8と昨年同様であった。＜IV-3 入試選抜の公平性・妥当性＞が4.0と高得点だったが昨年より、0.3低下した。入試委員が中心となり、マニュアルに従い確実に運営できていた。しかし、今年度の入試の変更点も多く、周知に多少の混乱もあり、それらが影響しているものと考ええる。＜IV-4. 学校広報活動の妥当性＞では、3.9と昨年より、0.1上昇した。本年度は、学校説明会・オープンキャンパス（2回）・入試説明会を目的別に開催し、受験対策まで丁寧にサポートした。開催に際して昨年のように人数制限もなく、来校型で行い、アンケートも高評価であった。また、PR活動においても高校訪問数を増加し、個人見学会、HPとSNSを活用して強化していった。結果、入学者の定員数の確保ができたことが要因として大きい。＜IV-5. 地域社会との交流・貢献＞が4.1と昨年より、0.3上昇した。コロナ禍もようやく落ち着き、地域清掃をはじめボランティア活動に多くの学生が主体的に参加し、地域住民との交流を図る機会があったことが要因として大きい。今後は、演習（模擬患者役）にもご協力いただき、積極的に地域と交流していきたい。

【V.教職員の育成】は3.6と0.3上昇した。＜V-1. 教職員研修の実施体制＞が3.6と昨年より、0.3上昇した。今年度は、教育上課題をテーマにFD担当が中心になり、職場内研修を実施している。アンケート結果も高評価で満足度も高かった。また、各教員は、研修会や学会にも積極的に参加している。研修後、十分な教員間の共有時間の確保が難しい点が課題である。各領域間で授業や演習の際は、協力し合い参加し、意見交換することで教員の資質向上につながっている。今後も教育力の向上を図っていく必要がある。

今年度の課題を踏まえ、学生が充実した学校生活を送ることができるよう教職員一同努めてまいります。今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。